

事務事業評価(事後評価)実施結果報告書

(平成 22 年度実施事業)

平成 23 年 12 月
越 谷 市

<目次>

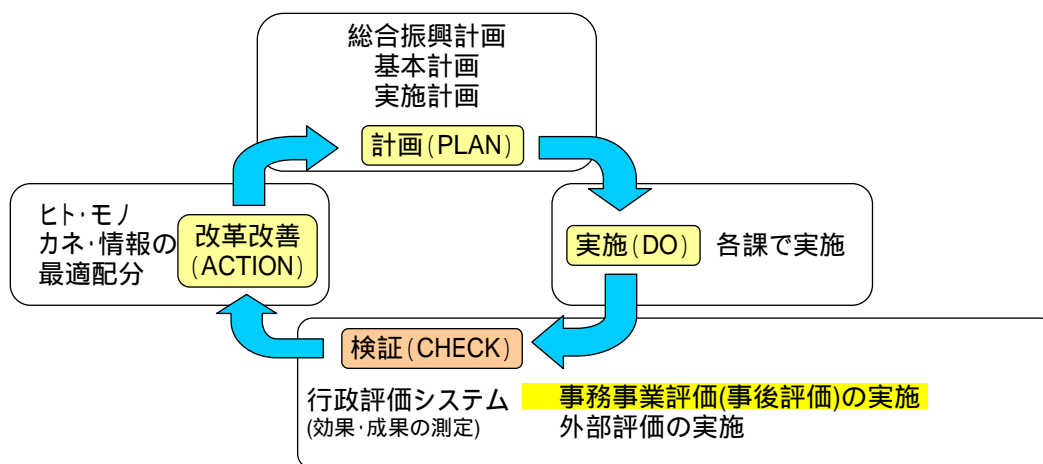
事務事業評価（事後評価）の実施における基本的な考え方	1
1 目的	1
2 基本方針	1
マネジメント・サイクルの構築	1
効率性の向上	2
事務事業評価（事後評価）の実施結果	3
1 実施時期と実施内容	3
2 実施手順	3
3 評価対象事業	4
4 評価項目	5
個別評価	5
総合評価	6
改革改善の方向性	6
5 評価結果	7
個別評価	7
総合評価	9
改革改善の方向性	10
分析結果	11
1 受益の偏りと受益者負担の見直しの余地	11
2 同じ目的をもつ事業の有無と廃止・縮小の余地	12
3 妥当性と効率性	13
4 妥当性と有効性	14
5 妥当性を重視したクロス分析	15
事務事業評価（事後評価）の結果を踏まえた今後の取組	17
1 各事業担当課における活用	17
2 全庁的な活用等	17
予算編成との連携	17
組織・定数調整との連携	17
総合振興計画の進行管理との連携	17
外部評価における対象事業の抽出等	17
行政改革における取組項目の設定	17
事務事業評価（事後評価）の結果の公表	17
参考資料	18
1 各種様式	19
2 事務事業評価（事後評価）実施マニュアル	22

事務事業評価（事後評価）の実施における基本的な考え方

1 目的

事務事業評価（事後評価）は、総合振興計画における実施計画の進行管理を含め、行政運営の中に計画(PLAN) 実施(DO) 検証(CHECK) 改革改善(ACTION)のマネジメント・サイクルによる継続的な改革改善の仕組みを取り入れることにより、ヒト・モノ・カネ・情報という経営資源の最適配分を図り、計画に位置付けられた施策を総合的・計画的・効果的に推進していくことを目的とする（図表 1-1）。

図表 1-1：【P D C A サイクル】



2 基本方針

マネジメント・サイクルの構築

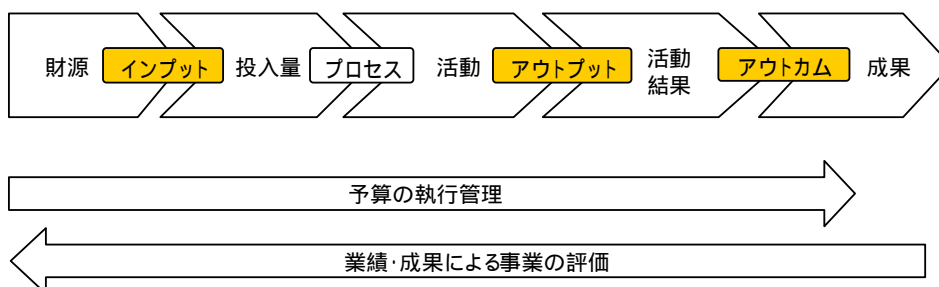
多角的視点による評価の実施

事業の「妥当性」「効率性」「有効性」及び「貢献度」の視点に基づき、事務事業評価（事後評価）を行う。

評価における客観性・成果の重視

事業目的を踏まえた適切な指標の設定等により、資源投入（インプット）に対する事業の活動結果（アウトプット）及び成果（アウトカム）を把握し、客観性と成果を重視した評価を行う（図表 1-2）。

図表 1-2：【行政活動とマネジメントの視点】



計画と予算・定数等の連携

計画(PLAN) 実施(DO) 検証(CHECK) 改革改善(ACTION)のマネジメント・サイクルの中で、評価結果を的確に次の事業展開又は見直しにつなげていくことができるように、計画と予算・定数等の連携を図る。

効率性の向上

関連調書の統合

実施計画の「実績調書」と行政評価の「事務事業評価表」、さらには男女共同参画プランの「実績調書」を統合し、1度に3種類の調査を行う。

データベース化

調書(事務事業評価表)の内容をデータベース化し、必要な情報の集計・分析を容易に行えるようにする。

作成上の負担の軽減

前年度に作成した事務事業評価表によって取得したデータをあらかじめ調書(事務事業評価表)に反映し、事業担当課における調書作成に係る負担をできるだけ軽減する。

事務事業評価（事後評価）の実施結果

1 実施時期と実施内容

事務事業評価（事後評価）の実施時期と実施内容は図表 2-1 のとおりである。

図表 2-1：【事務事業評価の実施時期と実施内容】

実施時期	実施内容
4月11日 } 4月28日	事務事業評価（事後評価）実施
7月7日	平成23年度 第3回行政経営推進本部会議で実施結果を報告
10月5・6・14日	外部評価実施
上記以降	行政経営推進本部会議及び行政経営審議会へ報告、評価結果を公表
	平成23年度当初予算編成の参考資料として評価結果を活用

2 実施手順

図表 2-2 のとおり、今年度の評価対象である事務事業について、担当課で事業ごとの評価を行った。その後、企画部行政管理課において集計及び分析を行い、外部評価を経た後に、その結果を企画部財政課において平成24年度当初予算編成の参考資料として活用する。

図表 2-2：【事務事業評価（事後評価）の実施手順】

項目	担当係長	担当課長	行政管理課	財政課
(1) 対象事業の確認	確認			
(2) 業務分担整理表(様式2)及び減価償却費計算表(様式3)の作成 ¹	作成			
(3) 事務事業評価表(様式1)	評価			
(4) 評価表等の提出		提出	確認	
(5) 集計及び分析			集計・分析	
(6) 参考資料として活用				活用
(7) 公表			公表	
(8) 当初予算編成				予算査定

¹ 各種様式、事務事業評価(事後評価)実施マニュアル参照

3 評価対象事業

企画部行政管理課において評価対象事業の選定基準（**図表 2-3**）に基づき対象事業の確認を行い、担当課と調整の上、選定した。

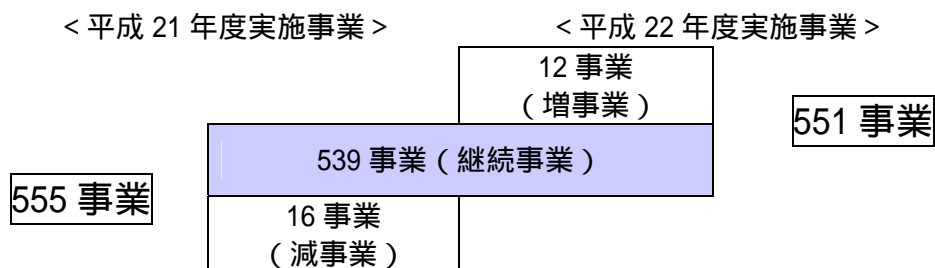
図表 2-3 :【評価対象事業の選定基準】

一般会計及び特別会計を対象とする。
事業別予算の「細々目」を1事業として対象事業（実施計画対象事業を含む。）とする。
事業別予算の「細々目」に対応する実施計画事業がある場合は、実施計画事業を1事業として捉える。
事業別予算の「細々目」の中で、「職員人件費」や「一般事務経費」等のように具体的な事業として捉えることが困難なものは対象外とする。

また、昨年度（平成 22 年度）に評価を行った事業（平成 21 年度実施事業）は 555 事業、今年度（平成 23 年度）に評価を行った事業（平成 22 年度実施事業）は 551 事業であった。

なお、平成 22 年度の対象事業は、**図表 2-4** のとおり平成 21 年度に比べ、終了、廃止、他の事業に統合等の理由により 16 事業減少し、新規や隔年で実施等の理由により新たに 12 事業増加した。

図表 2-4 :【評価対象事業数の推移】

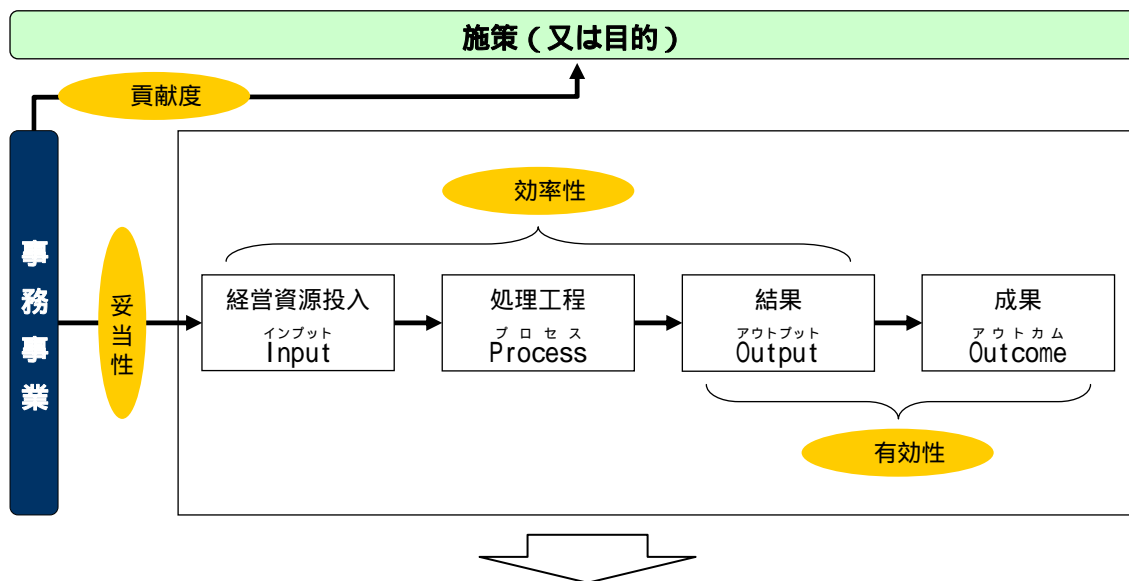


4 評価項目

個別評価

市が担うことの妥当性が高いか（事業の「妥当性」）、最少の資源投入量で最大の結果が出ているか（事業の「効率性」）、事業の成果が出ているか（事業の「有効性」）、上位にある施策の実現（又は目的達成）に貢献しているか（事業の「貢献度」といった視点（**図表 2-5**）に基づき、個別評価を行った。具体的には、各視点につき最大 6 項目の質問（**図表 2-6**）を設け、該当する項目に対し「 」を選択する方法により評価の判断基準とした。

図表 2-5 【施策（又は目的）・事務事業と評価項目との関連図】



(1) 妥当性	市が担うことの妥当性が高いか
(2) 効率性	最少の資源投入量で最大の結果が出ているか
(3) 有効性	事業の成果が出ているか
(4) 貢献度	上位にある施策の実現（又は目的達成）に貢献しているか

参考：【目的、インプット、アウトプット、アウトカムの例】

	目的	インプット	アウトプット	アウトカム
街路灯整備	安全な道路と住宅環境の整備	実際にかかった費用 (事業費だけでなく人件費も含む。)	新設された街路灯の数	安全に通行できる道路の割合
リサイクル	ゴミの処理量の減少		リサイクルされた量	減量したゴミの割合
ボランティア活動の促進	ボランティア活動の参加者を増やす		講習会の開催及び参加者数	ボランティア活動に参加した人の数

図表 2-6 :【評価の視点と質問内容】

視点	質問内容
妥当性	社会情勢や時代の変化を踏まえても、事業の意義は薄れておらず、税金を使って実施する事業としてふさわしい。
	市民から事業継続の要望が多く、それを裏付ける具体的データや需要予測もある。受益者以外からの意見も広く聴いている。
	法律で市の実施義務や公務員の従事義務があり、市の意思では廃止・見直しできない。
	国・県・民間等では実施又は適切なサービス水準の確保が困難で、市が主体となって関与すべき事業である。
	休・廃止した場合に、市民に与える影響が大きい。
	特定の個人や団体に受益が偏っていない(不公平感はない)。
効率性	定期的に事業の実施手順や費用対効果を把握・検証し、効率化に向けた取組を行っている。
	活動指標による単位あたりのコストが、前年度との比較又は最近数年間の推移において、悪化(事業計画・予定されたコスト上昇等を除く)していない。
	事業の成果を下げずにコストを削減する余地(仕様や工法の見直し、電算化等の事務改善、臨時・非常勤職員等の活用や委託化など)はない。
	他の自治体の手法や体制と比較しても効率的かつ質の高い取組を行っている。
	受益者負担の見直しの余地はない、又は受益者負担を求める事業ではない。
有効性	事業目的を踏まえた適切な活動指標・成果指標(数値化が困難な場合等は文言により代替的に指標となるもの)を設定している。
	設定した活動指標・成果指標に対する達成度が高い。
	事業の活動量に見合った十分な成果が出ている。
	成果を上げるために事業内容を見直す必要はない。
	事業を継続することによって成果のさらなる向上又は適正水準の確保が期待できる。
貢献度	事業の対象や意図が上位施策の目的に結びついている。
	上位施策への貢献度を成果指標により客観的に説明できる。
	事業の成果が上位施策の実現に高く貢献している。
	上位施策を実現する手段として類似・重複する事業はない、又は他の事業と統合することによって成果を向上させる余地はない。

総合評価

各視点からの個別評価を踏まえた上で、課題の有無や内容、改善の程度等によりAからDまでの4段階(図表 2-7)で総合評価を行った。

図表 2-7 :【総合評価の内容】

類型	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

改革改善の方向性

総合評価で認識した課題を踏まえ、事業の「改革改善の方向性」として、「現状維持」、「検討・見直し」、「終了(H23年度)」の3段階で評価を実施した。

5 評価結果

個別評価

事業の「妥当性」「効率性」「有効性」及び「貢献度」の視点ごとに4項目から6項目の具体的な判断基準を設け、それぞれ該当する項目に対し「 」を選択する方法で評価を実施した。その結果を集計したものが**図表 2-8**である。さらに、一定のルール(**図表 2-9**)で、評価の視点ごとに、「高」「低」の2段階に集計し直したものが**図表 2-10**である。

図表 2-8 :【評価の視点ごとの集計結果 (質問別)】

類型	内容(具体的判断基準)	「 」の有無	
		有	無
(1) 妥当性	(1) 社会情勢や時代の変化を踏まえても、事業の意義は薄れておらず、税金を使って実施する事業としてふさわしい。	551 事業 100.0 %	0 事業 0.0 %
	(2) 市民から事業継続の要望が多く、それを裏付ける具体的データや需要予測もある。受益者以外からの意見も広く聴いている。	394 事業 71.5 %	157 事業 28.5 %
	(3) 法律で市の実施義務や公務員の従事義務があり、市の意思では廃止・見直してきない。	236 事業 42.8 %	315 事業 57.2 %
	(4) 国・県・民間等では実施又は適切なサービス水準の確保が困難で、市が主体となって関与すべき事業である。	520 事業 94.4 %	31 事業 5.6 %
	(5) 休・廃止した場合に、市民に与える影響が大きい。	515 事業 93.5 %	36 事業 6.5 %
	(6) 特定の個人や団体に受益が偏っていない(不公平感はない)。	539 事業 97.8 %	12 事業 2.2 %
(2) 効率性	(7) 定期的に事業の実施手順や費用対効果を把握・検証し、効率化に向けた取組を行っている。	485 事業 88.0 %	66 事業 12.0 %
	(8) 活動指標による単位あたりのコストが、前年度との比較又は最近数年間の推移において、悪化(事業計画上、予定されたコスト上昇等を除く)していない。	401 事業 72.8 %	150 事業 27.2 %
	(9) 事業の成果を下げずにコストを削減する余地(仕様や工法の見直し、電算化等の事務改善、臨時・非常勤職員等の活用や委託化など)はない。	421 事業 76.4 %	130 事業 23.6 %
	(10) 他の自治体の手法や体制と比較しても効率的かつ質の高い取組を行っている。	456 事業 82.8 %	95 事業 17.2 %
	(11) 受益者負担の見直しの余地はない、又は受益者負担を求める事業ではない。	481 事業 87.3 %	70 事業 12.7 %
(3) 有効性	(12) 事業目的を踏まえた適切な活動指標・成果指標(数値化が困難な場合等は文言により代替的に指標となるもの)を設定している。	508 事業 92.2 %	43 事業 7.8 %
	(13) 設定した活動指標・成果指標に対する達成度が高い。	415 事業 75.3 %	136 事業 24.7 %
	(14) 事業の活動量に見合った十分な成果が出ている。	506 事業 91.8 %	45 事業 8.2 %
	(15) 成果を上げるために事業内容を見直す必要はない。	228 事業 41.4 %	323 事業 58.6 %
	(16) 事業を継続することによって成果の更なる向上又は適正水準の確保が期待できる。	532 事業 96.6 %	19 事業 3.4 %
(4) 貢献度	(17) 事業の対象や意図が上位施策の目的に結びついている。	540 事業 98.0 %	11 事業 2.0 %
	(18) 上位施策への貢献度を成果指標により客観的に説明できる。	427 事業 77.5 %	124 事業 22.5 %
	(19) 事業の成果が上位施策の実現に高く貢献している。	511 事業 92.7 %	40 事業 7.3 %
	(20) 上位施策を実現する手段として類似・重複する事業はない、又は他の事業と統合することによって成果を向上させる余地はない。	495 事業 89.8 %	56 事業 10.2 %

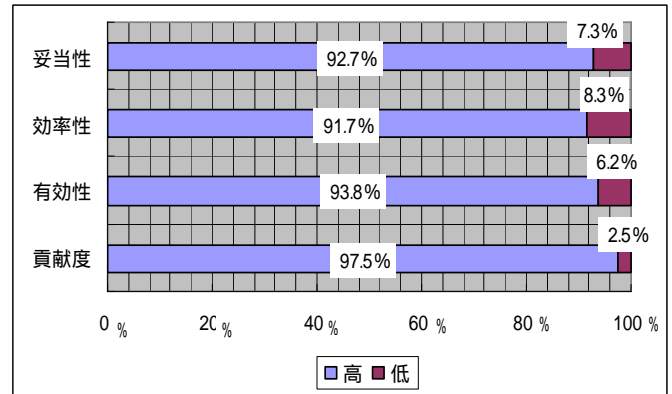
図表 2-9 :【変換表】

	レベル	妥当性	効率性	有効性	貢献度
「」の数の合計	高	6	5	5	
		5	4	4	4
		4	3	3	3
	低	3	2	2	2
		2	1	1	1
		1	0	0	0
		0			

「妥当性」「効率性」「有効性」及び「貢献度」のそれぞれの視点ごとの「」の数を算出し、上記の変換表を用いて「高」「低」のうちいずれが該当するものに変換した。

表 2-10 :【評価の視点ごとの集計結果（「高」「低」変換後）】

評価の視点		区分		計
		高	低	
妥当性	事業数	511	40	551
	構成比	92.7 %	7.3 %	100.0 %
効率性	事業数	505	46	551
	構成比	91.7 %	8.3 %	100.0 %
有効性	事業数	517	34	551
	構成比	93.8 %	6.2 %	100.0 %
貢献度	事業数	537	14	551
	構成比	97.5 %	2.5 %	100.0 %



【妥当性】

評価対象とした 551 事業中、「高」が 511 事業（92.7%）、「低」が 40 事業（7.3%）であり、評価対象事業のほとんどの事業について、妥当性が高いという評価結果になったものの、7.3%の事業については、市で実施する必要があるか等について再確認する必要があると考えられる。

【効率性】

評価対象とした 551 事業中、「高」が 505 事業（91.7%）、「低」が 46 事業（8.3%）という結果となり、このことから、評価対象事業の 8.3%は、まだ効率化を図る余地があるものと考えられる。

【有効性】

評価対象とした 551 事業中、「高」が 517 事業（93.8%）、「低」が 34 事業（6.2%）という結果となり、このことから、評価対象事業の 93.8%は成果があがっているものの、残りの 6.2%は、成果が十分に出ていない又は客観的な指標に基づく成果の説明がなされていないもの等と考えられる。

【貢献度】

評価対象とした 551 事業中、「高」が 537 事業（97.5%）、「低」が 14 事業（2.5%）という結果となり、このことから、評価対象事業の 97.5%が上位施策の実現（又は目的達成）に貢献しているものの、残りの 2.5%は貢献度が十分でない又は客観的な指標に基づく貢献度の説明がなされていないもの等と考えられる。

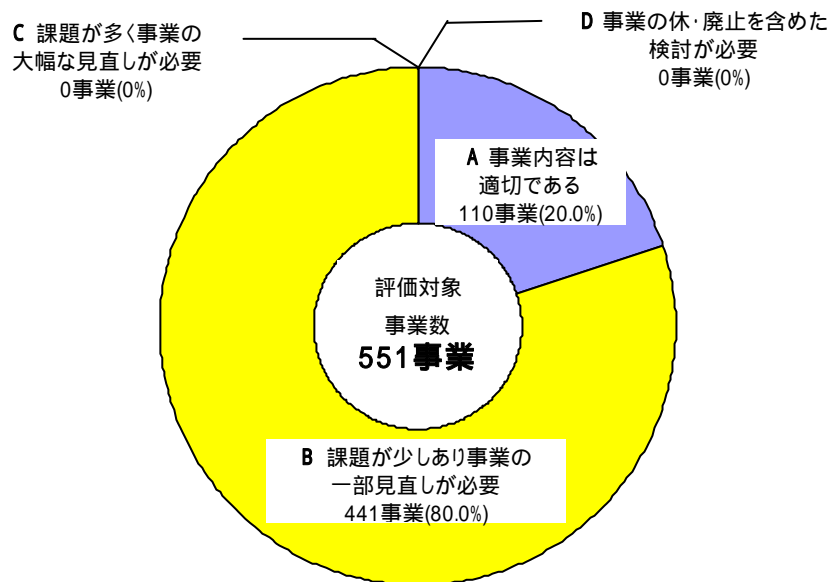
総合評価

事業の総合評価として、A（事業内容は適切である）、B（課題が少しあり事業の一部見直しが必要）、C（課題が多く事業の大幅な見直しが必要）、D（事業の休・廃止を含めた検討が必要）の4段階評価を実施し、その結果を集計したものが図表2-11である。

評価対象とした551事業中、A評価は110事業(20.0%)、B評価は441事業(80.0%)、C評価、D評価の事業はなかった。

図表2-11：【総合評価の集計結果及び構成比】

総合評価	事業数(件)	構成比
A 事業内容は適切である	110	20.0%
B 課題が少しあり事業の一部見直しが必要	441	80.0%
C 課題が多く事業の大幅な見直しが必要	0	0.0%
D 事業の休・廃止を含めた検討が必要	0	0.0%
計	551	100.0%



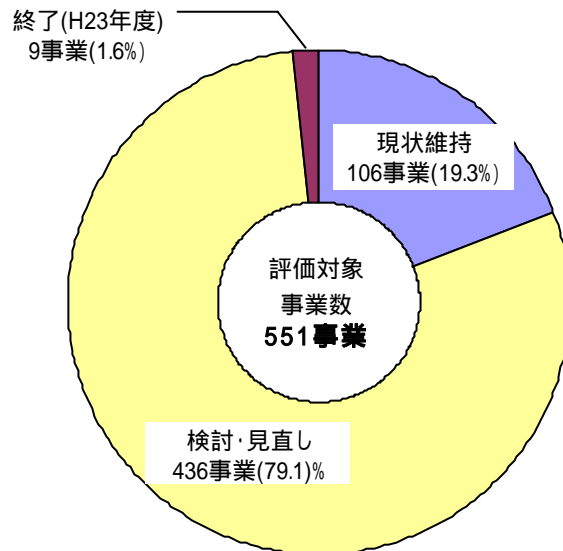
改革改善の方向性

評価対象とした事業の今後における改革改善の方向性として、「現状維持」、「検討・見直し」、「終了(H23年度)」の3段階評価を実施した。その結果を集計したものが**図表 2-12**である。

評価対象とした 551 事業中、「現状維持」は 106 事業 (19.3%)、「検討・見直し」は 436 事業 (79.1%)、「終了(H23年度)」は 9 事業 (1.6%) という結果になった。

図表 2-12 :【改革改善の方向性の集計結果及び構成比】

区分	現状維持	検討・見直し	終了(H23年度)	計
事業数	106	436	9	551
構成比	19.3%	79.1%	1.6%	100.0%



参考：【改革改善の方向性の集計結果（終了（H23年度）事業内訳）】

終了(平成23年度)9事業

番号	事業名
129	心身障害者地域デイケア事業費補助事業
170	介護保険料収納補助員配置事業
172	緊急雇用創出基金事業
310	就職支援パソコンセミナー事業(緊急雇用創出基金事業)
316	末田・須賀堰整備事業
338	市道70002号線整備事業
510	小学校低学年補助教職員配置事業(緊急雇用創出基金事業)
529	県議会議員選挙事業
530	市議会議員選挙事業

番号:事務事業評価等実施結果一覧表の事業番号

分析結果

各課において実施した事務事業評価（事後評価）の結果に基づき、評価項目等のクロス分析（1. 受益の偏りと受益者負担の見直しの余地、2. 同じ目的をもつ事業の有無と廃止・縮小の余地、3. 妥当性と効率性、4. 妥当性と有効性、5. 妥当性を重視したクロス分析（事業の必要性和市が直接実施する必要性））を行い、個々の事業において複合的な視点から課題になると考えられる事項を抽出した。

1 受益の偏りと受益者負担の見直しの余地

「特定の個人や団体に受益が偏っていない（不公平感はない）〔特定の個人や団体に受益が偏っていないか〕」及び「受益者負担の見直しの余地はない、又は受益者負担を求める事業ではない〔受益者負担の見直しの余地はあるか〕」の二つの視点でクロス分析を行った。評価対象とした 551 事業の分布状況を調べたところ、**図表 3-1** のような結果になった。この図表の中で特に(c)に該当する事業は、「特定の個人や団体に受益が偏っている（不公平感がある）」こと、また「受益者負担の見直しの余地がある」ことから、受益者負担の見直しをする必要があると考えられる。

図表 3-1 :【受益の偏りと受益者負担の見直しの余地のクロス分析シート】

特定の個人や団体に受益が偏っていないか	偏っていない	(a) 67 事業	(b) 472 事業
	偏っている	(c) 3 事業	(d) 9 事業
		ある	ない
		受益者負担の見直しの余地はあるか	

(c)に該当する事業は、受益者負担の見直しをする必要があると考えられる。

参考：図表 3-1 で(c)に位置付けられた事業（3 事業）

番号	事業名
75	集会施設整備事業
131	地域活動支援センター事業費補助事業
214	母子家庭等生活支援事業(母子家庭自立支援給付事業)

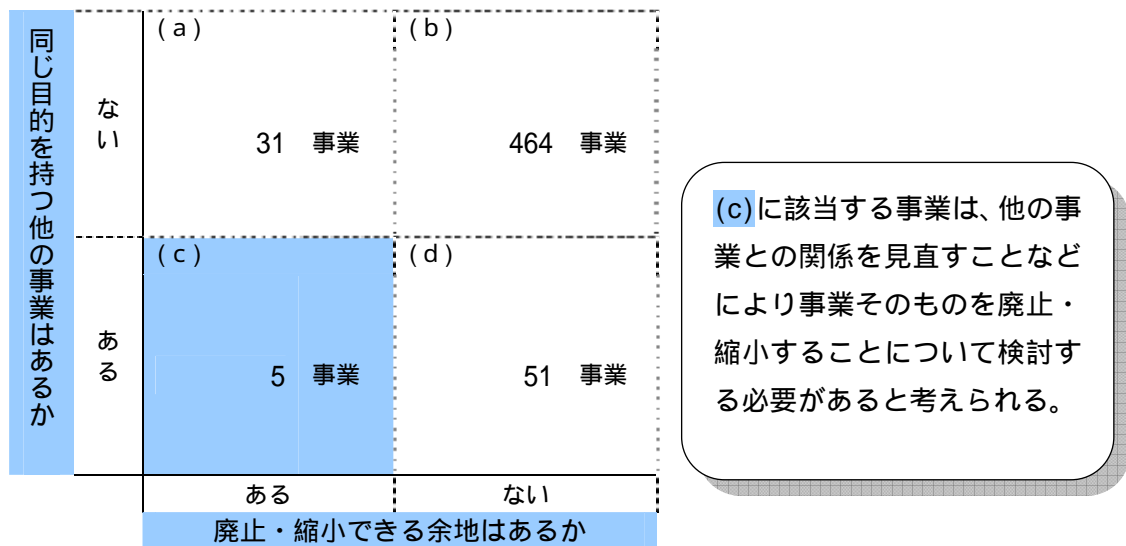
番号:事務事業評価等実施結果一覧表の事業番号

2 同じ目的をもつ事業の有無と廃止・縮小の余地

「上位施策を実現する手段として類似・重複する事業はない、又は他の事業と統合することによって成果を向上させる余地はない〔同じ目的を持つ他の事業はあるか〕」及び「休・廃止した場合に、市民に与える影響が大きい〔事業を廃止・縮小できる余地はあるか〕」の二つの視点でクロス分析を行い、評価対象とした 551 事業の分布状況を調べたところ、**図表 3-2** のような結果になった。

この図表の中で特に(c)に該当する事業は、「同じ目的を持つ他の事業がある」こと、また「事業を廃止・縮小できる余地がある」ことから、他の事業との関係を見直すことなどにより事業そのものを廃止・縮小することについて検討する必要があると考えられる。

図表 3-2 :【同じ目的を持つ事業の有無と廃止・縮小の余地のクロス分析シート】



参考：図表 3-2 で(c)に位置付けられた事業（5 事業）

番号	事業名
21	統計調査事業
83	公有財産管理事業(東小林記念会館)
131	地域活動支援センター事業費補助事業
285	リサイクルプラザ啓発施設管理事業(修理再生等啓発事業)
384	都市景観推進事業

番号:事務事業評価等実施結果一覧表の事業番号

3 妥当性と効率性

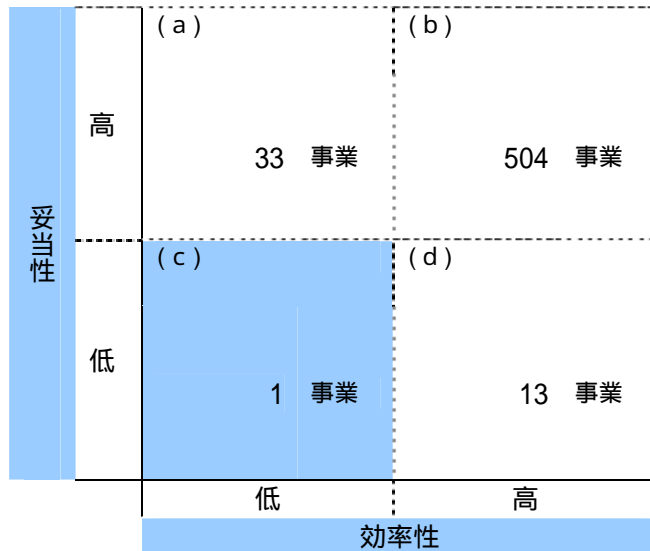
市で実施する必要があるか等の判断基準である「妥当性」及び事業が効率的に実施されているか等の判断基準である「効率性」の二つの視点でクロス分析を行い、評価対象とした 551 事業の分布状況を調べたところ、**図表 3-3**のような結果になった。

この図表の中で左下の(c)に近づくほど「妥当性」及び「効率性」がともに低くなるため、そこに位置する事業は、市が実施すべき事業であるか、また、コストを削減できないか等の面からの見直しが必要であると考えられる。

また、(a)のように、「妥当性」が高いにもかかわらず、「効率性」が低い事業は、市が実施する必要がある重要な事業として捉えることはできるが、今後も継続して実施していくためには、業務改善やコストの見直しが必要であると考えられる。

さらに、(d)のように、「効率性」が高くて、「妥当性」が低い事業は、市民ニーズが低いにもかかわらず資金を投入しているのではないかと考えられる。

図表 3-3 :【妥当性と効率性のクロス分析シート】



(c)に該当する事業は、市が実施すべき事業であるか、コストを削減できないか等の面からの見直しが必要であると考えられる。

参考：図表 3-3 で(c)に位置付けられた事業 (1 事業)

番号	事業名
131	地域活動支援センター事業費補助事業

番号:事務事業評価等実施結果一覧表の事業番号

4 妥当性と有効性

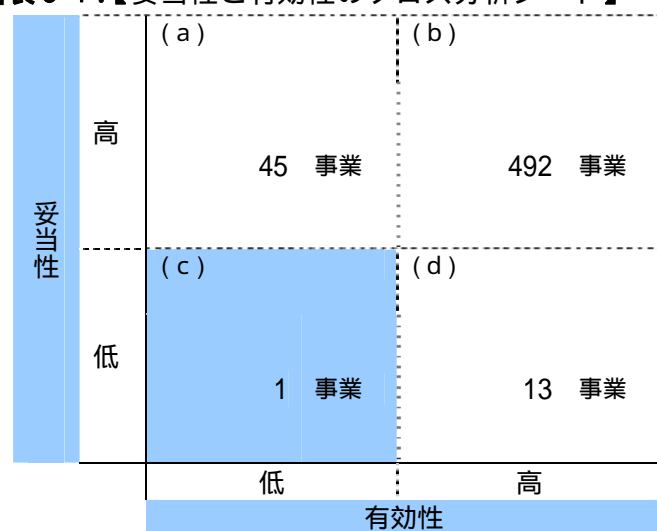
市で実施する必要があるか等の判断基準である「妥当性」及び事業の成果が出ているか等の判断基準である「有効性」の二つの視点でクロス分析を行い、評価対象とした 551 事業の分布状況を調べたところ、**図表 3-4** のような結果になった。

この図表の中で左下の(c)に近づくほど「妥当性」及び「有効性」がともに低くなるため、そこに位置する事業は、市が実施すべき事業か、また、成果をあげるために何が必要か等の面からの見直しが必要であると考えられる。

また、(a)のように、妥当性が高いにもかかわらず、有効性が低い事業は、市が実施すべき重要な事業と捉えることができるが、事業の実施手段の見直しが必要であると考えられる。

さらに、(d)のように、「有効性」が高いにもかかわらず「妥当性」が低い事業は、事業の成果があがっていたとしても、はたして市で実施すべき事業であるのか、場合によっては民間に委ねる必要があるのではないかという見直しが必要であると考えられる。

図表 3-4 :【妥当性と有効性のクロス分析シート】



(c)に該当する事業は、市が実施すべき事業か、また成果をあげるために何が必要か等の面からの見直しが必要であると考えられる。

参考：図表 3-4 で(c)に位置付けられた事業（1 事業）

番号	事業名
131	地域活動支援センター事業費補助事業

番号：事務事業評価等実施結果一覧表の事業番号

5 妥当性を重視したクロス分析

市で実施する必要があるか等の判断基準である「妥当性」の中でも、特に「事業の必要性」と「市が直接実施する必要性」の二つの視点を用いて、事業仕分け²的なクロス分析を行い、評価対象とした 551 事業の分布状況を調べたところ、**図表 3-5**のような結果になった。

この図表の中で左下の(c)に近づくほど「事業の必要性」及び「市が直接実施する必要性」がともに低くなるため、そこに位置する事業は、事業の目的と意義を再確認し、事業そのものの必要性及び市が直接実施すべき事業かを見直す必要があると考えられる。

また、(a)のように、「事業の必要性」が高いにもかかわらず「市が直接実施する必要性」が低い事業については、事業を実施する意義はあるが、はたして市が直接実施すべき事業であるのか、場合によっては民間に委ねる必要があるのではないかを見直す必要があると考えられる。

さらに、(d)のように、「市が直接実施する必要性」が高いにもかかわらず、「事業の必要性」が低い事業は、今後のあり方について、事業そのものの目的と意義を再確認する必要があると考えられる。

図表 3-5 :【妥当性を重視したクロス分析シート】

事業の必要性	高	(a) 23 事業	(b) 528 事業
	低	(c) 0 事業	(d) 0 事業
		低	高
		市が直接実施する必要性	

(a)に該当する事業は、実施主体を見直す必要があると考えられる。

(c)に該当する事業は、事業そのものの必要性及び実施主体を見直す必要があると考えられる。

(d)に該当する事業は、事業そのものの目的と意義を再確認する必要があると考えられる。

² 事業仕分け：事業の「そもそもの必要性」や「本来の実施主体」等について、事業ごとに評価し、そのあり方を抜本的に整理し、行財政改革の充実を図るもの。

参考：図表 3-5 で(a)に位置付けられた事業（23 事業）

番号	事業名
113	防犯対策事業
115	更生保護事業
131	地域活動支援センター事業費補助事業
191	疾病予防事業(国民健康保険)
225	家庭保育室事業
244	学童保育室運営事業
249	児童館ヒマワリ施設管理事業
250	児童館ヒマワリ運営事業
295	若年者等就職支援事業
304	観光推進事業
310	就職支援パソコンセミナー事業(緊急雇用創出基金事業)
313	市民農園整備事業
314	農業技術研究事業
329	都市型農業経営者育成支援事業
394	西大袋土地区画整理事業
395	東越谷土地区画整理事業
396	七左第一土地区画整理事業
412	住まいの情報館施設管理事業
425	入学準備金貸付事業
432	IT講習会開催事業
464	スポーツ・レクリエーション推進事業
500	小学校低学年補助教職員配置事業(緊急雇用創出基金事業)
524	給食センター施設管理事業

番号:事務事業評価等実施結果一覧表の事業番号

事務事業評価（事後評価）の結果を踏まえた今後の取組

以上による事務事業評価（事後評価）の結果については、その内容を踏まえ、今後、各事業担当課及び全庁的な取組として、次のような活用等を積極的に図るものとする。

1 各事業担当課における活用

当該事業の決算に向けた課題の整理、当初予算編成及び事務事業の改革改善等を進めていく上での参考資料とする。

2 全庁的な活用等

予算編成との連携

別途実施する外部評価の結果等とともに、翌年度の当初予算編成の参考資料として活用する。

組織・定数調整との連携

事務事業評価（事後評価）における「業務分担整理表」を含めて組織・定数調整の参考資料として活用する。

総合振興計画の進行管理との連携

総合振興計画実施計画の進行管理の参考資料として活用する。

外部評価における対象事業の抽出等

今年度の外部評価対象事業の抽出及び外部評価者への説明のための参考資料として活用する。

行政改革における取組項目の設定

第5次行政改革における取組項目として設定するための参考資料として活用する。

事務事業評価（事後評価）の結果の公表

議会における平成22年度決算の認定の後、外部評価の結果等と併せて公表する。

參考資料

1 各種様式

事務事業評価表

【平成22年度実施事業】事務事業評価表							0 事業区分	様式1-1				
I 概要	1 事業名	2 (1)所管コード 023300		2 (2)部名 企画部		3 (3)課名 行政管理課						
		2 (4)係名		2 (5)課長名		2 (6)係長名						
		2 (7)担当者名		2 (8)連絡先								
	3 事業コード	4 男女共同参画コード	5 事業別予算コード	7 事業開始年度	0	9 複掲法令等						
	6 主要関連計画	7 事業終了年度			0							
	10 総合振興計画・男女共同参画プラン上の位置付け	実現の方策		1)大項目・テーマ		都市経営の推進						
				2)中項目・課題と取組の方向		効率的で計画的な行政運営の推進						
				3)小項目		計画行政の推進						
II 事業内容	11 (1)対象	↑具体的に記入		(4)【目的】と【手段】に分けて簡潔に記入してください。								
				<例> 【目的】 ○○を使用する△△の安全を確保する。 ○○の△△を推進する。 【手段】 業務委託により××を行う。 ××を開催する。等								
	(3)対象年齢											
III DO 実施	1 進捗状況	21年度決算		22年度当初予算		22年度決算		23年度当初予算		23年度予算要求		(単位)
	2 資源投入量	(1)人工	①正規職員	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	人	
			②非常勤・臨時職員	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
		合計(①+②)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
	(2)コスト	①人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	円	
		②事業費	0	0	0	0	0	0	0	0		
		③間接経費	0	0	0	0	0	0	0	0		
		④減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0		
		合計(①+②+③+④)	0	0	0	0	0	0	0	0		
	(3)財源内訳コスト②の内訳	①国・県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	円	
②市債		0	0	0	0	0	0	0	0			
③その他特定財源		0	0	0	0	0	0	0	0			
④一般財源		0	0	0	0	0	0	0	0			
3 活動結果	活動指標名	単位	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	22年度目標					
			0	0	0	0	0					
		単位当りコスト	#Num!	#Num!	#Num!	#Num!	#Num!					
	指標式1		0.00	0.00	0.00	0.00	0					
	単位当りコスト	#Num!	#Num!	#Num!	#Num!	#Num!						
	指標式2											
4 成果	成果指標名	単位	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	23年度目標					
			0.00	0.00	0.00	0.00	0					
	指標式1											
	指標式2											
III 評価 K o c h e n	1 個別評価	以下の(1)から(20)までのそれぞれの項目のうち該当する項目に○										
	(1)妥当性	(1) 社会情勢や時代の変化を踏まえても、事業の意義は薄れておらず、税金を使って実施する事業としてふさわしい。 (2) 市民から事業継続の要望が多く、それを裏付ける具体的データや需要予測もある。受益者以外からの意見も広く聴いている。 (3) 法律で市の実施義務や公務員の従事義務があり、市の意思では廃止・見直しできない。 (4) 国・県・民間等では実施又は適切なサービス水準の確保が困難で、市が主体となって関与すべき事業である。 (5) 休・廃止した場合に、市民に与える影響が大きい。 (6) 特定の個人や団体に受益が偏っていない(不公平感はない)。 (7) 定期的に事業の実施手順や費用対効果を把握・検証し、効率化に向けた取組を行っている。 (8) 活動指標による単位あたりのコストが、前年度との比較又は最近数年間の推移において、悪化(事業計画上、予定されたコスト上昇等を除く)していない。 (9) 事業の成果を下げずにコストを削減する余地(仕様や工法の見直し、電算化等の事務改善、臨時・非常勤職員等の活用や委託化など)はない。 (10) 他の自治体の手法や体制と比較しても効率的かつ質の高い取組を行っている。 (11) 受益者負担の見直しの余地はない、又は受益者負担を求める事業ではない。 (12) 事業目的を踏まえた適切な活動指標・成果指標(数値化が困難な場合は文言により代替的に指標となるもの)を設定している。 (13) 設定した活動指標・成果指標に対する達成度が高い。 (14) 事業の活動量に見合った十分な成果が出ている。 (15) 成果を上げるために事業内容を見直す必要はない。 (16) 事業を継続することによって成果のさらなる向上又は適正水準の確保が期待できる。 (17) 事業の対象や意図が上位施策の目的に結びついている。 (18) 上位施策への貢献度を成果指標により客観的に説明できる。 (19) 事業の成果が上位施策の実現に高く貢献している。 (20) 上位施策を実現する手段として類似・重複する事業はない、又は他の事業と統合することによって成果を向上させる余地はない。										
	(2)効率性											
	(3)有効性											
	(4)貢献度											
	2 総合評価:					前年度			外部評価:	実施年度	総合評価	
						前々年度				未実施	-	
		⇒各評価で認識した課題等:										
	IV 目標改善	1 改革改善の方向性			2 予算面(H24年度の予定)							
		↑具体的な内容	左記①②の区分ごとにそれぞれ記入してください。									
		①平成24年度に向けた取組	<例> ①平成24年度から○○を△△することとし、それに向けて××に取り組んでいく。 ②(平成XX年度までに)○○を□□するために、△△して、××を図っていく。									
		②中長期的な取組										

減価償却費計算表

様式3

減価償却費計算表

1 所管:

	部
	課
	係・担当

ブルーの部分に記入して下さい。
所管、事業名、資産の種類、名称、構造、取得年度（西暦も必ず）、耐用年数、取得価額を入力してください。

2 事業名		
3 種類	建物/建物附属設備/機械装置/車両/備品	
4 名称		
5 構造		
6 取得年度	9 取得価額	
7 西暦		
8 耐用年数	償却率	#DIV/0!

	西暦	年度	取得価額	減価償却費	帳簿価額
1	1969	S44	0	0	0
2	1970	S45	0	0	0
3	1971	S46	0	0	0
4	1972	S47	0	0	0
5	1973	S48	0	0	0
6	1974	S49	0	0	0
7	1975	S50	0	0	0
8	1976	S51	0	0	0
9	1977	S52	0	0	0
10	1978	S53	0	0	0
11	1979	S54	0	0	0
12	1980	S55	0	0	0
13	1981	S56	0	0	0
14	1982	S57	0	0	0
15	1983	S58	0	0	0
16	1984	S59	0	0	0
17	1985	S60	0	0	0
18	1986	S61	0	0	0
19	1987	S62	0	0	0
20	1988	S63	0	0	0
21	1989	H1	0	0	0
22	1990	H2	0	0	0
23	1991	H3	0	0	0
24	1992	H4	0	0	0
25	1993	H5	0	0	0
26	1994	H6	0	0	0
27	1995	H7	0	0	0
28	1996	H8	0	0	0
29	1997	H9	0	0	0
30	1998	H10	0	0	0
31	1999	H11	0	0	0
32	2000	H12	0	0	0
33	2001	H13	0	0	0
34	2002	H14	0	0	0
35	2003	H15	0	0	0
36	2004	H16	0	0	0
37	2005	H17	0	0	0
38	2006	H18	0	0	0
39	2007	H19	0	0	0
40	2008	H20	0	0	0
41	2009	H21	0	0	0
42	2010	H22	0	0	0
42	2010	H23	0	0	0

2 事務事業評価(事後評価)実施マニュアル

《目 次》

<u>1</u>	事務事業評価（事後評価）の実施における基本的な考え方	23
1	目的	23
2	基本方針	23
<u>2</u>	事務事業評価（事後評価）の実施手順	24
1	実施手順	24
2	実施項目	24
<u>3</u>	事務事業評価表等の記入マニュアル	25
	様式 1 - 1、様式 1 - 2 :【平成 22 年度実施事業】事務事業評価表	25
	様式 2 :【業務分担整理表】(こしがや男女共同参画プラン対象事業は作成不要)	33
	様式 3 :【減価償却費計算表】(こしがや男女共同参画プラン対象事業は作成不要)	34

1 事務事業評価（事後評価）の実施における基本的な考え方

1 目的

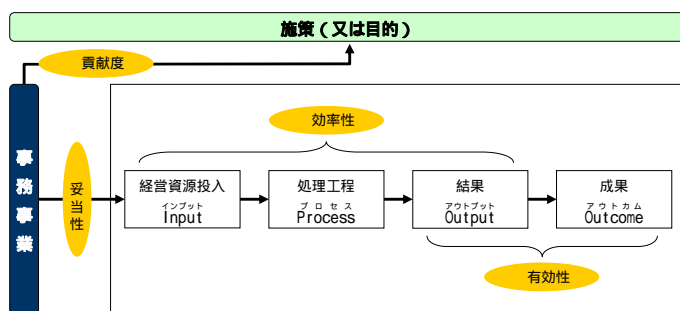
事務事業評価（事後評価）は、**第3次越谷市総合振興計画**及び**こしがや男女共同参画プラン**における実施計画の**進行管理**を含め、行政運営の中に**計画（PLAN） - 実施（DO） - 検証（CHECK） - 改革改善（ACTION）**の**マネジメント・サイクル**による継続的な改革改善の仕組みを取り入れることにより、**ヒト・モノ・カネ・情報**という**経営資源の最適配分**を図り、**計画に位置付けられた施策を総合的・計画的・効果的に推進**していくことを目的とします。

2 基本方針

マネジメント・サイクルの構築

多角的視点による評価の実施

事業の「**妥当性**」「**効率性**」「**有効性**」及び「**貢献度**」の視点に基づき、事務事業評価（事後評価）を行います。



評価における客観性・成果の重視

事業目的を踏まえた適切な指標の設定等により、資源投入（インプット）に対する事業の活動結果（アウトプット）及び成果（アウトカム）を把握し、客観性と成果を重視した評価を行います。

計画と予算・定数等の連携

計画（PLAN） 実施（DO） 検証（CHECK） - 改革改善（ACTION）のマネジメント・サイクルの中で、評価結果を的確に次の事業展開又は見直しにつなげていくことができるように、**計画と予算・定数等との連携**を図ります。

効率性の向上

関連調書の統合

実施計画の「実績調書」と行政評価の「事務事業評価表」、さらには男女共同参画プランの「実績調書」を統合し、一度に3種類の調査をできるようにしています。

データベース化

調書（事務事業評価表）の内容を**データベース化し、必要な情報の集計・分析を容易**に行えるようにしています。

作成上の負担の軽減

前年度に作成した事務事業評価表によって取得したデータをあらかじめ今年度作成分の調書（事務事業評価表）反映し、**事業担当課における調書作成に係る負担をできるだけ軽減**するようにしています。

2 事務事業評価（事後評価）の実施手順

1 実施手順

以下の表1の手順で事務事業評価（事後評価）を実施します。

表1：事務事業評価の実施手順

項目	担当係長	担当課長	行政管理課等	財政課
(1) 対象事業の確認	確認			
(2) 業務分担整理表(様式2)及び減価償却費計算表(様式3)の作成	作成			
(3) 事務事業評価表(様式1)	評価			
(4) 評価表等の提出		提出	確認	
(5) 集計及び分析			集計・分析	
(6) 参考資料として活用				活用
(7) 公表			公表	
(8) 当初予算編成				予算査定

網掛け部分：事業担当課において実施する項目

こしがや男女共同参画プラン対象事業については、網掛け部分中、(1)及び(2)の項目については実施する必要はありません。

2 実施項目

上記実施手順のうち、今回実施する項目の詳細は以下のとおりです。項目の順番にしたがって実施してください。

(1) 対象事業の確認

企画部行政管理課において評価対象事業の選定基準（表2）に基づき対象事業の選定を行い、**事業別予算等一覧表（参考資料1）**としてまとめましたので、確認の上、修正する必要がある場合は、企画部行政管理課と調整してください。

表2：評価対象事業の選定基準

一般会計及び特別会計を対象とする。
 事業別予算の「細々目」を1事業として対象事業（実施計画対象事業を含む。）とする。
 事業別予算の「細々目」に対応する実施計画事業がある場合は、実施計画事業を1事業として捉える。
 事業別予算の「細々目」の中で、「職員人件費」や「一般事務経費」等のように具体的な事業として捉えることが困難なものは対象外とする。

(2) 業務分担整理表（様式2）及び減価償却費計算表（様式3）の作成：（11～12頁参照）

(3) 事務事業評価表（様式1）の作成：（3～10頁参照）

(4) 評価表等の提出

前年度までの事務事業評価（事後評価）や外部評価の結果等も的確に踏まえて評価を実施してください。

3 事務事業評価表等の記入マニュアル

様式 1 - 1、様式 1 - 2 :【平成 22 年度実施事業】事務事業評価表

以下の項目について、データを入力してください。番号は、調書の項目と同一となっています。一部の項目は、昨年度（平成 22 年度）作成の事務事業評価表のデータが反映されていますが、評価対象の変更（平成 21 年度実施事業 平成 22 年度実施事業）や組織改正等の理由により内容の変更が考えられますので、**必ず確認**し、変更がある場合は修正してください。

評価表は、説明責任の観点から市民に公表しますので、各項目の記述内容が、簡潔・明瞭で公表に適したものであるか十分に確認してください。なお、文章表現は「である調」で、可能な限り端的に表現してください。

確認のポイントは

事業の対象、事業内容の焦点や方向性等がずれていないか？

活動結果、成果の設定が適切か？

妥当性、効率性、有効性、貢献度について、各チェック項目に対する判断は適切であるか？

総合評価や改革改善の内容が個別評価の結果を踏まえたものになっているか？

【入力項目等】フ：男女共同参画プラン事業はこの記号が付いている項目のみ修正・入力

文章を入力するセルでの改行は **Ctrl + Enter** です。

入力項目及び入力目的等		入力方法等
概要	0 事業区分	「市民サービス」、「施設整備・管理」、「負担金・補助金等」、「内部管理」、「その他」のうち、いずれか該当するものをプルダウンメニューの中から選択してください。
	1 事業名	事業別予算等一覧表（参考資料 1）を参照し、2 - 2 - (1) 対象事業の確認（2 頁参照）で評価対象事業とした事業の名称（事業別予算の細々目名、実施計画の場合は実施計画名）を入力してください。 細々目名が「費」となっている場合は、「〇〇事業」に変更してください。
2 所 管	(1) 所管コード	各種コード一覧表（参考資料 2）を参照し、該当する 6 桁の所管コードを入力してください。
	(2) 部名	所管コードの入力により自動で表示されます。
	(3) 課名	所管コードの入力により自動で表示されます。
	(4) 係名	フ 事業を実施する（平成 23 年度の）係名を入力してください。
	(5) 課長名	フ 事業を実施する課の（平成 23 年度の）課長名を入力してください。
	(6) 係長名	フ 事業を実施する係の（平成 23 年度の）係長名を入力してください。
	(7) 担当者名	フ 事業の（平成 23 年度の）担当者名を入力してください。
	(8) 連絡先	フ 例 1 内 25XX 例 2 965 - XXXX
3 事業コード	当該事業が総合振興計画のどの施策に位置付けられるか勘案し、各種コード一覧表（参考資料 2）を参照し、該当する 6 桁の小項目コードを入力してください。	
4 男女共同参画コード	修正・入力は不要です。	
5 事業別予算コード	事業別予算等一覧表（参考資料 1）を参照し、該当する 13 桁の事業別予算コードを入力してください。	

	入力項目及び入力目的等	入力方法等
	6 主要関連計画等	<p>総合振興計画及び男女共同参画プラン以外に当該事業が位置付けられている計画等がある場合は、その名称と計画期間及び当該事業の実施期間を入力してください。</p> <p><例> プラン(計画期間H18～H23、実施期間H20～H23)</p>
	7 事業開始年度	<p>事業を開始した年度を入力してください。なお、不明な場合は「-」と入力してください。</p> <p>例1 S56 例2 H10</p>
	8 事業終期年度	<p>事業の終期年度を入力してください。特に終期を設定していない場合は「-」と入力してください。</p> <p>例 H23 例 -</p>
	9 根拠法令等	<p>事業を実施する根拠となる「法律」、「政令」、「条例」、「規則」、「要綱」等の名称を入力してください。</p> <p>例 法第×条第×項第×号</p>
	10 総合振興計画・男女共同参画プラン上の位置付け	<p>事業コードの入力により自動で表示されます。</p> <p>表示されない場合は事業コードに誤りがあります。各種コード一覧表(参考資料2)を参照し、正しい6桁の小項目コードを入力してください。</p>
	(1) 大項目・テーマ	
	(2) 中項目・課題と取組の方向	
	(3) 小項目	
11 事業内容	(1) 対象	<p>「個人」、「世帯」、「団体」、「その他」のうち、いずれか該当するものをプルダウンメニューの中から選択してください。特に対象を限定していない場合は、「その他」を選択してください。</p> <p>また、下段に「事業の対象となる人やモノ」を具体的かつ簡潔に入力してください(単に対象を「市民」とするのではなく、世代、地域などによりできるだけ対象を特定する)。</p> <p>例1 市内の65歳以上の高齢者 例2 市街化区域内の住民</p> <p>【One Point アドバイス】 対象が誰かわからない場合は、その事業をやめてしまったと仮定した場合に、誰が困るかを考えてみてください。自ずと対象が見えてくるはずです。</p>
	(3) 対象年齢	<p>次の例により、対象年齢を具体的に入力してください。</p> <p>例</p> <p>0歳以上 3歳以下を対象とする場合 「0歳以上3歳以下」と入力</p> <p>0歳以上 3歳未満を対象とする場合 「0歳以上3歳未満」と入力</p> <p>20歳を対象とする場合 「20歳」と入力</p> <p>60歳以上を対象とする場合 「60歳以上」と入力</p> <p>全世代を対象とする場合 「全世代」と入力</p>

	入力項目及び入力目的等	入力方法等
	<p>(4) 事業目的及び手段</p>	<p>事業の「目的」と「手段」について、下記を踏まえ市民にわかりやすい内容で入力してください。</p> <p>目的 <u>事業を実施する意義や必要性を明確</u>に示し、 -11- による「対象」をどのような状態にすることを目指しているのか等</p> <p>手段 上記の目的を達成するため、<u>具体的にどのような手段で事業を実施しているのか</u> 例 業務委託により××を行う。××を開催する。等</p> <p><u>評価表の<例>を参考に、〔目的〕と〔手段〕に分けて入力してください。</u></p> <p>ただし、男女共同参画プラン対象事業については、必ずしも分ける必要はありません。昨年度の提出内容が入力されていますので、必要に応じて変更してください。</p> <p>入力できる文字数(制限文字数)は255文字までです(制限文字数を超えての入力はできません。なお、空欄も1文字としてカウントされます。)</p> <p>男女共同参画プラン対象事業を含めて、この項目の入力内容は、各事業を説明する最も基本的な情報の一つとして、事業一覧資料や<u>年次報告書(ホームページ等で公表)にも反映されます</u>ので、市民から見てわかりやすいものとなるよう記載してください。</p> <p>【One Point アドバイス】 事業の目的は、事業の存在意義でもあります。事業の展開によって得られるであろう「成果」を意識して記入してください。逆にこの項目がうまく設定できない事業は、事業そのものの存在意義が問われます。</p>

	入力項目及び入力目的等	入力方法等
実施・DO	1 進捗状況	<p>「終了(H22)」、「計画どおり進行」、「やや遅れている」、「未実施」のうち、該当する項目をプルダウンメニューの中から選択してください。なお、「やや遅れている」や「未実施」の場合は、その理由を -2 の課題欄に、今後の対応策等を の改革改善欄にそれぞれ簡潔に入力してください。</p> <p>男女共同参画プラン対象事業において、<u>一つ目の活動指標が数値となっている事業</u>については、原則として設定された目標と実績の比較により、実績が下回っている場合は「<u>やや遅れている</u>」、同じか実績が上回っている場合は「<u>計画どおり進行</u>」を選択してください。</p>
	2 資源投入量 (1) 人工 正規職員 非常勤・臨時職員	<p>22 年度決算の欄については、業務分担整理表（様式 2 の Sheet2）の該当箇所（当該事業の 欄の「正規職員人工数」）を入力してください。</p> <p>22 年度決算の欄については、業務分担整理表（様式 2 の Sheet2）の該当箇所（当該事業の 欄の「非常勤・臨時職員人工数」）を入力してください。</p> <p>「(1)人工」欄共通事項</p> <p>23 年度当初予算の欄については、今回は <u>22 年度決算の欄と業務量が変わらないものと考え、同数を入力してください。</u></p> <p>～ の合計は自動計算されます。 ゼロの場合は、0と入力してください。</p>
	(2) コスト 人件費 事業費 間接経費 減価償却費	<p>22 年度決算の欄については、業務分担整理表（様式 2 の Sheet2）の該当箇所（当該事業の 欄の「人件費合計」）を入力してください。23 年度当初予算の欄については、今回は <u>22 年度決算の欄と業務量が変わらないものと考え、同数を入力してください。</u></p> <p>事業費は、予算書等を参考に<input type="text"/>を入力してください。</p> <p>繰越明許費は、翌年度当初予算に上乗せし、指標式欄に「繰越明許費 <input type="text"/> 円は平成 <input type="text"/> 年度当初予算に上乗せ」と記入してください。</p> <p>については、行政管理課で対応しますので、今回は入力の必要はありません。</p> <p>については、減価償却費計算表（様式 3）により算出した減価償却費を入力してください。</p> <p>「(2)コスト」欄共通事項</p> <p>～ の合計は自動計算されます。 ゼロの場合は、0と入力してください。</p>
	(3) 財源内訳 国・県支出金 市債 その他特定財源 一般財源	<p>予算書等を参考に<input type="text"/>を入力してください。</p> <p>「(3)財源内訳」欄共通事項</p> <p>の一般財源は、<input type="text"/>を入力すると自動計算されます。 ゼロの場合は、0と入力してください。</p>

	入力項目及び入力目的等	入力方法等
活動結果	<p>3 ○活動指標名、単位</p> <p>男女共同参画プランと同一の指標を設定する場合には、目標値や実績値も同一のものを入力してください。</p> <p>○指標式</p> <p>○目標値、実績値</p>	<p>○活動指標名、単位</p> <p>活動指標名は活動結果・成果指標例(参考資料3)を参考に、事業の活動結果(アウトプット)を示す活動指標名及び単位を入力してください。</p> <p>複数ある場合は、代表的なものを入力してください(二つ以内)。</p> <p>○指標式</p> <p>事業の活動指標の算出方法(数式等)を入力してください。</p> <p>○目標値、実績値</p> <p>目標値(22、23年度)には、年度当初に設定した活動指標の目標値を入力し、実績値(22年度)には、当該年度の決算実績値を入力してください。単位当たりコストの欄については、入力の必要はありません。</p>
	<p>4 ○成果指標名、単位</p> <p>男女共同参画プランと同一の指標を設定する場合には、目標値や実績値も同一のものを入力してください。</p> <p>○指標式</p> <p>○目標値、実績値</p>	<p>○成果指標名、単位</p> <p>成果指標名は活動結果・成果指標例(参考資料3)を参考に、事業の成果(アウトカム)を示す成果指標名及び単位を入力してください。</p> <p>複数ある場合は、代表的なものを入力してください(二つ以内)。</p> <p>○指標式</p> <p>事業の成果指標の算出方法(数式等)を入力してください。</p> <p>○目標値、実績値</p> <p>目標値(22、23年度)には、年度当初に設定した成果指標の目標値を入力し、実績値(22年度)には、当該年度の決算実績値を入力してください。</p>

	入力項目及び入力目的等	入力方法等
評価・Check	1 個別評価 次の四つの視点に基づき評価します。 ・ <u>妥当性</u> ：市が担うことの妥当性が高いか ・ <u>効率性</u> ：最少の資源投入量で最大の結果が出ているか ・ <u>有効性</u> ：事業の成果が出ているか ・ <u>貢献度</u> ：上位にある施策の実現（又は目的達成）に貢献しているか	四つの視点（妥当性、効率性、有効性、貢献度）ごとに、 評価する上での具体的判断基準を列記してあります。客観的に判断し、該当する項目にはプルダウンメニューの中から「 」 を選択し入力してください。 なお、「 」の付かない項目は、当該事業の課題と捉えることができます。 該当する項目であることについて、客観的根拠等に基づき説明することが困難な場合は「 」を付けないでください。
	2 総合評価 個別評価による事業の妥当性、効率性、有効性、貢献度等を総合的に、成果とコストの両方の観点から評価します。 総合評価をする上での主な判断目安等は次ページのとおりです。 ○前年度 ○前々年度 ○外部評価 （実施年度、総合評価）	○総合評価 事業の 妥当性、効率性、有効性、貢献度 それぞれの評価の結果を踏まえ、その事業について「 A：事業内容は適切である 」「 B：課題が少しあり事業の一部見直しが必要 」「 C：課題が多く事業の大幅な見直しが必要 」「 D：事業の休・廃止を含めた検討が必要 」のうち、該当する項目をプルダウンメニューの中から選択してください。 ○前年度 ○前々年度 過年度の 評価表及び事務事業評価等実施結果一覧表 を参考に、当該事業の前年度、前々年度の総合評価を入力してください。（男女共同参画プラン対象事業は入力済み） なお、 <u>新規、統合等により、過年度に評価を実施していない場合は、「 - 」を選択してください。</u> ○外部評価（実施年度、総合評価） 過去に外部評価を実施している場合は、 実施年度及び総合評価が自動で表示されます （外部評価を実施していない事業は実施年度に「未実施」、総合評価に「 - 」が表示されます。男女共同参画プラン対象事業は、実施年度、総合評価ともに「 - 」が表示されます。）。 事務事業評価等実施結果一覧表 を参考に内容を確認し、いずれかに誤りがあった場合には、行政管理課へご連絡ください。

入力項目及び入力目的等	入力方法等
<p>各評価で認識した課題等：</p>	<p>各評価で認識した課題等： <u>過年度の評価結果（外部評価を含む）も踏まえ、今年度の評価において認識した課題等を簡潔に入力してください。</u> <u>なお、総合評価をAとした場合は、事業が適切な内容で実施されており、評価実施時点で見直すべき課題が見当たらないことが市民にわかるように、その理由等を入力してください。（評価実施時点で課題が見当たらない場合も、今後課題となるものが考えられる場合は、それを踏まえた記入をしてください。）</u></p> <p>また、過年度の評価で認識した課題に対し、何らかの取組を行っている場合には、<u>過年度に認識した課題及びその対応内容</u>を入力してください。</p> <p>例 平成 年度の評価で認識した××についての課題を踏まえ、 により対応したが、新たに が課題となっている。</p>
<p style="text-align: center;">総合評価の類型と主な判断目安及び対応の方向性</p> <p>A：事業内容は適切である</p> <p>【判断目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価の結果や目標・実績の達成度等を踏まえて、事業が適切な内容で実施されており、見直すべき課題が見当たらない（<u>法定受託事務など法律で実施が義務付けられている事業であっても、当該事業の進め方や取組方法等に改善の余地があれば、Aにならないと考えられます。</u>） ・個別評価で「 」の付かない項目（その事業になじまない項目を除く）がない。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりに事業を進める。 <p>B：課題が少しあり事業の一部見直しが必要</p> <p>【判断目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率性など事業の進め方等に課題がある。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の対象や手段等を見直し、コスト削減や成果向上を図る方策に取り組む。 <p>C：課題が多く事業の大幅な見直しが必要</p> <p>【判断目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コストを削減しても成果や市民サービスの低下をもたらさない。 ・事業の目的や市民ニーズ、他の自治体との比較等から見て、活動・サービスの対象や水準が過大であると認められる。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算等の事業規模や内容の縮小、実施主体の見直し、事業の統合等に取り組む。 <p>D：事業の休・廃止を含めた検討が必要</p> <p>【判断目安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が関与する妥当性が認められない。 ・事業の成果が認められない。 ・休・廃止しても市民への影響は特にならない。 ・外部環境の変化等により目的達成が困難と認められる。 <p>【今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の休・廃止等の検討及び調整に取り組む。 	

	入力項目及び入力目的等	入力方法等
改革改善	1 改革改善の方向性 男女共同参画プラン事業については、下記の注意事項に従って入力してください。	各評価で認識した課題等を踏まえ、当該事業の改革改善の方向性として「 検討・見直し 」「 現状維持 」「 終了（H23年度） 」のうち、該当する項目をプルダウンメニューの中から選択するとともにその内容（平成24年度に向けた取組と中長期的な取組）を具体的に入力してください。 総合評価でA（事業内容は適切である）とした事業以外は、「現状維持」は選択しないでください。 どのように改善するだけでなく、 いつまでに、何を、どのように改革改善 するのか、できる限り具体的に入力してください。 例 平成24年度から を することとし、それに向けて××に取り組んでいく。 （平成XX年度までに） を するために、して、××を図っていく。 総合評価をAとした場合も、今後の方向性等について入力してください。 【One Point アドバイス】 <u>評価実施時点で見直すべき課題が見当たらなくても、中・長期的な視点から取り組むべき内容などを入力してください。</u>
	2 予算面（H24年度の予定） 男女共同参画プラン事業については、下記の注意事項に従って入力してください。	平成24年度の予算要求の方向性について「 拡充 」「 現状維持 」「 縮小 」「 廃止（終了含む） 」のうち、該当する項目をプルダウンメニューの中から選択してください。

男女共同参画プラン事業の「1 改革改善の方向性」及び「2 予算面（H24年度の予定）」

平成23年度以降も計画上での位置づけがある場合

各評価で認識した課題等を踏まえ、当該事業の改革の方向性として「検討・見直し」「現状維持」のうち、該当する項目をプルダウンメニューの中から選択するとともにその内容（平成24年度に向けた取組と中長期的な取組）を具体的に入力してください。総合評価でA（事業内容は適切である）とした事業以外は、「現状維持」は選択しないでください。

平成24年度の予算要求の方向性については、「拡充」「現状維持」「縮小」のうち、該当する項目をプルダウンメニューの中から選択してください。

平成22年度で計画上での位置づけが終了する場合

プルダウンメニューの中から「計画対象外」が既に選択されています。平成23年度以降は計画対象外とはなりますが、事業自体は実施する場合は、平成24年度に向けた取組と中長期的な取組を具体的に入力してください。事業自体も平成22年度で終了となる場合は、その理由を入力してください。

平成24年度の予算要求の方向性については、事業自体の継続の有無に関わらず「計画対象外」が選択されています。

様式 2 :【業務分担整理表】(こしがや男女共同参画プラン対象事業は作成不要)

業務分担整理表は、Sheet 1 と Sheet 2 の 2 種類の Sheet から構成されており、事務事業評価表(様式 1-1)中、2 (1)人工^{にんく}及び 2 (2) - 人件費を算出するための表です。

名称	作成理由
Sheet 1	係単位で事務事業ごとの人工を算出するため
Sheet 2	Sheet 1 で算出した係単位の事務事業ごとの人工を課単位で集計するとともに、事務事業ごとの人件費を算出するため

以下の方法により、データを入力してください。入力する範囲は、ファイル中**水色で網掛けをした部分**です。番号は、調書の項目と同一となっています。

入力項目	入力方法等	記入上の留意事項																		
Sheet 1 係ごとに作成してください。																				
1 所管	部・課・担当(係)の名称を入力してください。																			
2 現在の職務内容	組織規則等による事務分掌、事務事業を参考に、平成 22 年度に実際に行った職務の内容を入力してください。																			
3 事務・事業名	「2 現在の職務内容」に対応する事務・事業名を入力してください。 事業別予算等一覧表(参考資料 1) を参照し、 2 - 2 - (1) 対象事業の確認(2 頁参照) で評価対象事業とした事務事業の名称(事業別予算の場合は 細々目名 、 実施計画の場合は実施計画名)を入力してください。 事務・事業に直接振り分けることができない職務については、 課共通業務 または 課外業務 に分類してください。	「2 現在の職務内容」に対応させるために、以下のように同一の事務・事業名を複数入力しなければならない場合があります。 《例》 <table border="1"> <tr> <td>2 現在の職務内容</td> <td>3 事務・事業名</td> </tr> <tr> <td>あ業務</td> <td>A 事業</td> </tr> <tr> <td>い業務</td> <td>A 事業</td> </tr> </table> ・他課が所管する職務は、番号 61 から 65 の課外業務に分類します。 例 選挙の応援 (業務量割合等は双方の課で確認してください。)	2 現在の職務内容	3 事務・事業名	あ業務	A 事業	い業務	A 事業												
2 現在の職務内容	3 事務・事業名																			
あ業務	A 事業																			
い業務	A 事業																			
4 事業別予算コード	事業別予算等一覧表(参考資料 1) を参照し、該当する 13 桁の 事業別予算コード を入力してください。																			
5 役職名	係に属する全ての人の役職名を記入してください。	<u>非常勤・臨時職員についてはこちらに入力せず、Sheet2 に直接入力してください。</u>																		
6 業務量割合	一人の業務量を合計すると 1.00 (再任用職員の場合は 0.30) となるように、それぞれの担当する職務内容ごとに業務量の割合を (0.05) 単位 で記入します。	・課及び係全体に係る職務は、番号 1 から 7 の課共通業務に分類します。 ・病休などで長期休業であった職員については、1.00 から休業期間分を差し引いた値で入力し、 <u>欄外に実勤務月数を記入してください(休業理由を入力する必要はありません)。</u>																		
Sheet2 係ごとのデータを課単位で集計																				
1 事務・事業名	Sheet 1 の 3 で入力した事務・事業名を 転記 してください。	Sheet 1 の 3 で同一の事務・事業名を複数入力した場合は、Sheet2 では 1 つにまとめてください。 《例》Sheet 1 <table border="1"> <tr> <td>2 現在の職務内容</td> <td>3 事務・事業名</td> <td>4 事業別予算コード</td> <td>人工合計</td> </tr> <tr> <td>あ業務</td> <td>A 事業</td> <td>0102030400502</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>い業務</td> <td>A 事業</td> <td>0102030400502</td> <td>0.5</td> </tr> </table> Sheet2 <table border="1"> <tr> <td>1 事務・事業名</td> <td>2 事業別予算コード</td> <td>人工合計</td> </tr> <tr> <td>A 事業</td> <td>0102030400502</td> <td>1.5</td> </tr> </table>	2 現在の職務内容	3 事務・事業名	4 事業別予算コード	人工合計	あ業務	A 事業	0102030400502	1.00	い業務	A 事業	0102030400502	0.5	1 事務・事業名	2 事業別予算コード	人工合計	A 事業	0102030400502	1.5
2 現在の職務内容	3 事務・事業名		4 事業別予算コード	人工合計																
あ業務	A 事業		0102030400502	1.00																
い業務	A 事業	0102030400502	0.5																	
1 事務・事業名	2 事業別予算コード	人工合計																		
A 事業	0102030400502	1.5																		
2 事業別予算コード	Sheet 1 の 4 で入力した事業別予算コードを転記してください。																			
直接人員の人工数	それぞれの事務・事業ごとに Sheet 1 の 人工合計を集計 して記入してください。																			
非常勤・臨時職員人工数	それぞれの事務・事業ごとに 非常勤及び臨時職員 の人工数を 入力 してください。																			
賃金	それぞれの事務・事業ごとに 賃金及び社会保険料(金額) を記入してください。																			

様式3：【減価償却費計算表】（こしがや男女共同参画プラン対象事業は作成不要）

以下の項目について、データを入力してください。番号は、調書の項目と同一となっています。入力する範囲は、水色の部分です。

なお、様式3の作成については、所得税法施行令（昭和40年政令第96号）第6条第1号から第7号までに規定する減価償却資産で、取得価額が1千万円以上のものを対象とします。

No.	入力項目	記入方法
1	所管	所管する部・課・係（担当）名を入力してください。
2	事業名	事業の名称 を入力してください。
3	種類	建物 （附属設備を含む。）、 構築物 （橋、貯水池等）、 機械・装置、車両・運搬具、工具・器具・備品 等のうち、該当する種類を入力してください。
4	名称	固定資産の名称 を入力してください。
5	構造	建物の構造 を入力してください。
6	取得年度	取得した年度 を入力してください。
7	西暦	取得した年（西暦） を入力してください。
8	耐用年数	耐用年数は、次のとおりとしてください。 建物 50年 建物附属設備（エレベーター等） 17年 車両 消防車・救急車 5年 その他のものについては、行政管理課と協議してください。
9	取得価額	取得価額 を入力してください。